

## 令和5年度中央アルプスにおけるライチョウ生息域内保全事業(案)

## 1. ライチョウのモニタリング

## 1) なわばり分布調査

北部地域 4月下旬～6月上旬

伊那前岳～宝剣山荘～駒ヶ岳～将棋頭～木曽前岳

2泊3日 1回2～3名程度 5回程度

中南部地域 5月下旬～6月下旬

宝剣岳～三ノ沢岳～檜尾岳～熊沢岳～空木岳～南駒ヶ岳～越百岳

3泊4日から4泊5日 1回6～8名程度 2回程度

\*ただし、調査回数については現地の状況に応じて変更する。

## 2) 巣探し調査

北部地域 6月中旬から下旬 2泊3日 2回程度

(ケージ保護対象家族を優先した事業の実施)

中南部地域 上記なわばり分布調査と合わせて実施。巣探し調査のみは想定せず。

## 3) ケージ保護事業

実施期間：6月下旬から8月上旬まで

ケージ設置数：最大5個(天狗荘2個、頂上山荘3個)

保護家族数：1ヶ月程度保護することを目指す。場合によっては家族を入れ替えて5家族以上を保護することも検討する。

人工：1日あたり10名程度を想定



次年度のなわばり調査実施範囲

ただし、サル追い払いの人工は除く。

また、来年度からは長野県OJTによるケージ保護での研修は行なわれない。

信州大学への協力依頼等は検討している。

餌の供給：環境省が乗鞍岳から週に1回程度クロウソゴの運搬を行なう。1回の運搬量について70L発泡スチロール2箱程度を想定している（背負える量としても2箱が最大）。また、白馬五竜植物園からも最低1回刈り取ったムカゴトラノオ（中央アルプス産）の穂についても運搬する。なお、野菜とペレット飼料については高山帯現地における高山植物の採取量を低減するために継続して使用する。

#### 4) 雛の生存率調査

北部地域 7月上旬～8月上旬 ケージ保護と並行して実施

8月中旬～10月下旬 2泊3日程度 10回程度

中南部地域 7月上旬～10月末まで 3泊4日程度 4回程度

## 2. 登山者からの目撃情報収集

### (1) 紙媒体での目撃情報収集

現在設置している宝剣山荘、頂上山荘、千畳敷ホテルに加え、中南部地域（駒峰ヒュッテ、檜尾山荘）でも設置を検討。

### (2) YAMAPによるライチョウモニター

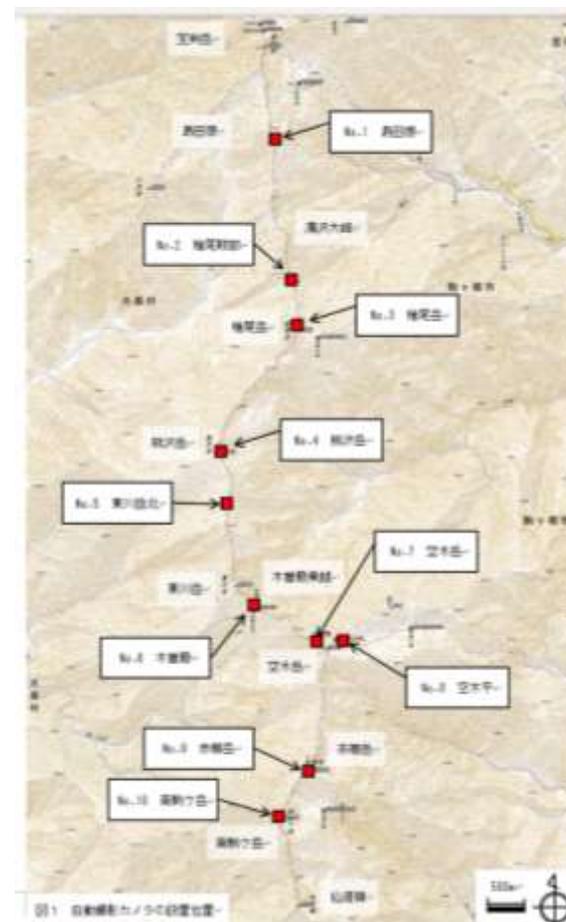
令和5年度についても継続。毎年の結果は長野県が作成したアプリ「ライポス」と情報交換を行なう。特に、5月から10月については得られた情報に応じて、適宜情報交換を行なう。



### 3. センサーカメラ調査

北部地域 今年（12 基程度）に加え、中岳周辺でも 3 個程度のカメラ設置を予定

中南部地域 今年度並み（10 基程度）に加え、越百岳などまでなわばりが拡大していればカメラの増設（2 個程度を予定）



#### 4. 中央アルプスにおける剥製標本の遺伝解析を元にした減少要因調査

中央アルプスでは過去に多くの剥製標本作成のためにライチョウが捕獲された可能性がある。そのため、現存する剥製標本を使って中央アルプスにおける過去の遺伝的多様性や、個体群の減少等を解析するライチョウの遺伝解析を改めて開始する。これまで実施してきたミトコンドリアDNAや核DNAのマイクロサテライト領域ではなく、SNIPsなどの新たな手法での解析を目指す。そのため、次年度は新たな作業部会設立を行い解析手法の検討などを実施する。

#### 5. ライチョウの捕食者等対策

##### (1) 中央アルプスにおける捕食者対策の基本方針

中央アルプスにおいては早期にライチョウの個体数を安定的な数まで増加させるための予防的な施策として捕食者対策が実施されてきた。中央アルプスではこれまで1頭のテンが捕獲されたのみで、ライチョウの生存率も他の山岳に比べ高い傾向が続いていた。しかし令和4年度については、中央アルプスで生まれた雛か、野生復帰させた雛にかかわらず、ケージ保護が終わってから約2週間の雛の生存率が非常に低かった。令和4年度は、ライチョウの捕食者、特にキツネの撮影頻度が高かったこと、ケージ保護した周辺地域で雛が哺乳類に捕食された痕跡が複数確認されたことから、昨年度に比べ多くの個体が捕食されたと考えられる。

以上の結果を受け、早期にライチョウ個体数を安定的な数まで増加させるために、中央アルプスでも捕食者対策の拡充と効率化が必要と判断した。そのため、捕獲エリアの拡大やキツネなども捕獲できるくくり罠の導入を行うこととした。

##### (2) 新たな罠の導入

新たに導入する罠として、南アルプスと同じタイプの罠を用いる。これらの罠は錯誤捕獲の可能性もあることから、設置の際に十分な見回りを実施しノウサギやニホンザル等の錯誤捕獲等が生じた場合には速やかに放逐を行う。これまでも設置しているかご罠周辺を中心に以下の罠を設置し捕獲効率を高める。また、小屋から離れた人目につかない場所にも罠を設置する。設置する罠のタイプについては平地での試験結果などを踏まえて設置者と十分協議して決定する。

緩衝性足はさみ罠・足くくり罠・胴くくり罠

### (3) 既存の罠の運用方法の変更

#### 筒罠の小屋外での使用

現在は小屋内にも設置している筒罠について、かご罠を設置しているエリア内で夏季にも活用を検討する。

#### かご罠での捕獲方法改良

これまでは冷凍の唐揚げを中心に、さきいか、レーズンなどを設置していたが、より誘引効果の高い餌について検討する。沖縄島やんばる地域のマングース捕獲事業でも利用が検討されている生きたネズミを誘引餌（捕食はできないようにする）とする方法も試験的に実施する。その場合、誘引用のネズミは山小屋などに生息しているものを活用する。

### (4) 捕獲エリアの拡大

今年度は檜尾岳のつがいは雛を失っていた。このエリアでは6月から定期的にテンがセンサーカメラに撮影されていたことから、テンに捕食された可能性がある。駒ヶ岳から東西に延びる尾根もキツネやテンが多く撮影されている地域であるが、将棋頭周辺は複数のなわばりができる重要な生息地域となりつつある。そのため、これらの地域における捕食者の捕獲を実施する。かご罠はトラップシャイ等が起きていなければ比較的有効な捕獲方法であるため、拡充するエリアではかご罠を使用する。



#### (5) ケージ保護終了後2週間程度の追い払い

今年度はケージ保護終了から2週間程度の間には捕食が集中していたため、駒ヶ岳頂上から頂上山荘周辺の限られたエリアを中心に、ケージ保護終了から2週間程度、哺乳類の追い払いの実施を検討する。追い払い方法の詳細は今後検討するが、光や音を用いて行うことを想定している。

#### (6) 糞 DNA による個体識別調査の実施

今年度はケージ保護地域周辺で捕食跡が多く見ついていることなどから、捕食者の特定の個体が駒ヶ岳周辺で活動していた可能性がある。駒ヶ岳周辺に現れている個体が複数いるのかどうか等を明らかにするため、駒ヶ岳周辺で捕食者の糞を回収し、糞に含まれる DNA から個体識別を行う。年間の採取数は最大で70個程度として、ケージ保護を開始する6月末から10月までサンプルの回収を行う。



## 捕食者対策

宝剣山荘・頂上山荘

罾の種類	個数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	冬期 (小屋閉め期間)	備考
胴くり罾・足はさみ罾等	2			←	→					ケージ保護期間+放鳥後2週間程度を想定
かご罾	4			←	→					
筒罾	4			←	→				←	
追い払い(テン・キツネ)	—					←	→			

西駒山荘

罾の種類	個数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	冬期 (小屋閉め期間)	備考
かご罾(密閉式)	1		←	→				←		
筒罾	2								←	

檜尾小屋

罾の種類	個数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	冬期 (小屋閉め期間)	備考
かご罾(密閉式)	1		←	→				←		
筒罾	2								←	

←

## ニホンザル対策

方法	個数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	冬期 (小屋閉め期間)	備考
ニホンザルの追い払い	—			←	→					
発信器の装着	—	←	→							